



下北教育事務所
QRコード

社会教育だより
「かけ橋」はバックナンバーも含めて下北教育事務所のホームページでご覧になれます。

地域との連携を担う教職員研修

～7月5日（火）むつ来さまい館～

○講義・演習

「社会に開かれた教育課程の実現に向けて
～地域と学校とが共に築く子どもの未来～」
講師：福島県本宮市立本宮まゆみ小学校
前校長（CSマイスター） 安齋 宏之 氏



【講師から】

○「社会に開かれた教育課程」実現は、学校だけが担うものではない。「社会との連携・協働によって実現を図っていく」ものである。

「情報源」や「場や機会」、「仕組み」が必要である。

「社会に開かれた教育課程」の基盤

○「社会に開かれた教育課程」の基盤づくり

- ・共有できる明確な目標設定
- ・保護者・地域住民の当事者意識、教職員の協働意識の高揚
- ・合意形成の場、連携・協働の場の設置
- ・学校評価の活用



スクール・ガバナンスの確立と地域との連携・協働

○「熟議」

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら課題解決を目指す対話。

熟議で出されたアイデアは、実現の可能性が高いもの、取り組む効果が大きいものを選別し、具体的な取り組みにする。

【参加者の声】

- ・「学校だけでなく保護者や地域住民と一緒に作る」という言葉からも、CSや地域学校協働活動の推進が大切であると改めて感じた。
- ・先生方の色々な考えを聞くことができ、とても参考になることが多くよい機会だった。今後CSがある時には熟議を実践したい。



生涯学習・社会教育関係職員研修講座

下北地区研修

9月6日（火）むつ市中央公民館

○講義・演習

「事業の企画力の向上」
講師：Mr. マサックこと 工藤 貴正 氏



企画力の向上について説明した後に、受講者を参加させながら企画を体験（マジック等）させながらポイントを紹介していただきました。

【講師から】

○「企画力の向上」について

- ・情報収集の大切さ、読書や人との出会い、多くの情報に積極的に触れる。
- ・企画は身の回りのふとしたところに転がっているものを発見する。
- ・企画力をつけるための視点の変え方として、先入観を捨てて違う角度から考える。
- ・企画は「楽しく・分かる」ことが大切。「難しく・分からない」では誰も参加したくない。等。



写真左 「どの色でつくか？」分かりますか？

写真右 スプーン曲げです。少し力がいりますが、簡単に曲がります。素材は18ステンレスのスプーンで。

※メモに依存せず、自分の頭の中への定着化を図ることが大事。その方がしっかりと覚える。視点を変えて考えてみるとよい。

【参加者の声】

- ・様々な視点から物事を考えることの大切さを学ぶことができた。
- ・失敗をもとに考えたというマジックをしていただいたが、「失敗から新しいことを考える」ということが大変心に残った。

『小学生による縄文遺跡と地域文化財体験事業』

～ジュニアガイドツアー～

子ども達が縄文遺跡をはじめとする地域の文化財に直接触れ、地域の保護団体等との連携による体験活動を通じて縄文文化や地域文化財に関する理解を深めると共に郷土愛の醸成を図り、将来的に文化財の保存・活用に携わる人財の育成を図るために、「小学生による縄文遺跡と地域文化財体験事業」を実施しています。

本管内では、大湊小学校の6年生が、水源池公園を紹介するガイドツアーの実施に向けて5月から準備に取り組んでいるところです。

指導者として、むつ市教育委員会生涯学習課職員の方々、北の防人大湊ガイドグループの方々にアドバイスをいただきながら学習を進めています。

学習した成果を発表する日時が決まりましたので、お知らせいたします。

日時 10月5日（水） 10：00～

場所 北の防人大湊 安渡館（9：45までに集合）

※一般参加者の申込みは、15名程度を予定しています。

詳細はむつ市教育委員会生涯学習課へ問合せください。

電話0175-22-2111（内線3124/3144）



木々の種類の学習

ワークショップ

ガイド練習

ユメココ展示会

～7月4日（月）～6日（水）むつ来さまい館

今年度も青森県教育支援プラットフォーム下北地区実行委員会（竹園正敏委員長）が、下北管内の小学生を対象に実施している「ユメココ教室（仕事体験出前授業）」を広く一般の地域住民にも紹介するため、ポスター展を開きました。「ユメココ教室」以外にも各企業・事業所の工夫を凝らした取組の様子も展示されました。7月5日（火）には、「地域との連携を担う教職員研修」に参加された先生方にもご覧いただきました。地域が支えるキャリア教育の大切さが伝わってきました。

